

11. 尿管結石の自然排石促進に対する α_1 ブロッカーと漢方薬の併用療法の検討

さくらの杜診療所
蓮田 精之

【緒言】2002年に α_1 ブロッカーによる下部尿管結石排石促進効果が報告され、2011 EAU Guidelines on Urolithiasisに、自然排石促進に最も適した薬剤として記載された。鎮痛薬使用も減少するとの報告も多いが、更なる排石促進と疼痛抑制を期待して α_1 ブロッカーと桂枝茯苓丸を中心とする漢方薬の併用療法を試みたので報告する。

【対象】平成21年5月から平成24年11月の間に、疼痛発作にて公立刈田総合病院救急外来を受診後に私の外来を紹介された尿管結石症例の内、保存的治療を希望した男性12例(28歳~71歳)に対し、 α_1 ブロッカーと漢方エキス製剤の併用を行った。 α_1 ブロッカーはタムスロシン9例、シロドシン3例で、漢方薬は桂枝茯苓丸11例(1例は猪苓湯に変更後に排石、1例は尿道痛出現後猪苓湯に変更)、大建中湯合桂枝加芍薬湯1例であった。

結石部位は上部(U1)4例、中部(U2)2例、下部(U3)5例。長径は3~5mm 8例、6~9mm 3例、1例はCT予定日に来院せず部位、長径とも不明であった。

【結果】12例中10例で自然排石が得られた。1例は近医紹介のため、1例は座薬が切れて救急外来を受診した後再診しなかったため、排石は未確認である。

排石が自覚できた6症例の排石までの日数は、当日(U2,4mm)から106日後(U1,9mm)で、無自覚の4症例では6から49日後の受診時には排石していた。

7例は痛みなく排石し、1例のみ座薬を必要とした。長径9mmの1例は2回の腹痛と排尿痛を認めた。1例は排石当日に軽度の背部痛、1例は尿道痛があった。1例は5日後の他医受診まで痛みはなく、水腎症も消失していた。

【結語】症例数が少なく対照群のない検討ではあるが、 α_1 ブロッカーと漢方薬(主に桂枝茯苓丸)を併用することにより、高い排石率が得られ、痛み発作も抑制できる可能性が示唆された。